＜特別寄稿＞

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第25回　ニクズク（ナツメグ）

ニクズク科に属する常緑性の熱帯樹です。葉はつやがあり革質です。黄色の小さな白い花を開き、球形で橙黄色の果実を結びます。種子にくっついている皮をはがして乾燥したものがニクズク花（Mace）です。

種皮を除いた種子は粉末として、料理の香辛料、発汗剤として用いられます。種子の水蒸気蒸留により得られるニクズク油、種子を圧縮して得られるニクズク脂何れも香料として重要です。

ナツメグは肉の保存に重要なスパイスであったことから大航海時代の最も重要な貿易品の一つでした。スパイスとしての使用と共に神経疲労に活力を与え、失神時の覚醒作用、各種疼痛に対する鎮痛作用等を目的に薬用としても重要視されていました。

作者年代共不詳です。